

トーキング ロード  
嘶家人生 山あり、谷あり

〔 第7回 〕

## 幽霊とお化けの違い

✦ 文 林家木りん Text by Kirin Hayashiya ✦

夏になりますと、いろいろな風物詩がありますよね！

僕なんかは、ずっと野球をやっていたので、夏は甲子園が先に思い浮かんできます。

小さい頃、テレビで甲子園を観ていた頃はすごくお兄ちゃんがやっているイメージでしたが、いつのまにかその年齢に並んであつという間に通り過ぎてしまいました(笑)。

プロ野球などを観ても同じ年が中堅と呼ばれだし、しみじみと自分の年齢を実感する今日この頃です。

また落語家になり、夏の風物詩が2つ増えました。

1つは神宮外苑花火大会です。

二ツ目になりたての頃、聖徳記念絵画館会場の司会を務めさせて頂き、今では隔月で独演会まで開かせて頂いております。

去年はプライベートで花火を観賞し、ビールを飲みすぎてペロペロになった記憶があります(笑)。

そしてもう一つが落語にあります怪談嘶です。

怪談嘶といっても様々で、本当に怖いものから滑稽なものまであり、僕の大師匠八代目林家正蔵は、芝居

嘶と「怖い方」の怪談嘶を得意としておりました。

師匠木久扇は前座時代、正蔵師匠の怪談嘶の中に出てくる幽霊の格好で客席に行きお客さんを驚かせたり、舞台袖から火の玉を釣竿で上からぶら下げる役をやり、ぶらぶらさせているうちに正蔵師匠の髪の毛を焼いたりしていました(笑)。

そういえば前に師匠に「幽霊とお化けの違いってなんですか？」と聞いたんですが、この答えが秀逸でした。

「そんなの簡単だよ。あのね、綺麗な人が死んだら幽霊でそうでない人が死んだらお化けだよ」

なんとも師匠らしい回答！

今回ご紹介する落語は滑稽嘶なんですけど、綺麗な幽霊が出てくる「ろくろ首」という嘶。

なにをしても半人前の与太郎が、「お嫁さんが欲しい」と言い出した。おじさんは財産があつて器量が良く、おまけに年も若い娘さんを紹介するが、この娘さんには、とある病が…それはある条件になると首が伸びて

しまうという。

僕はこの落語のオチがとても落語らしく、好きなものの一つです！

夏ならではの嘶なので、皆さまもお聴きください！



## profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。

2009年林家木久扇に入門

2013年二ツ目昇進。

身長192cmと、落語協会一の高身長！

趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。

空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。

初の著書『師匠!』発売中

## 独演会のお知らせ

日時：8月31日(土)

14時開演(13時半開場)

会場：聖徳記念絵画館(明治神宮外苑)

チケット：前売り 2,800円

当日 3,000円

ご予約お問い合わせ：オールドキッズ

電話：045-309-1007

(受付時間 平日11時～18時)

メール：kirin.kirin.kirin24@gmail.com